



国際協力機構（JICA）海外協力隊の小学校教員として、カメルーン的首都ヤウンデで図工、音楽、体育などの授業内容を現地の教員に提案する活動をしている。子どもたちにさまざまな学習機会を提供し、学びを深めてもらうと同時に、協調性も養う時間

JICA
だより



カメルーン
木村友南さん(31)
鳥取市出身

図工で自己表現後押し

ためか、当初、教員に授業をどうすればよいのか戸惑い、迷う様子が見られた。一方、体育だけは別格だ。休日の朝になると、どの町でも大人が子どもたちとジャジー姿で町中を歩いて

いる。体を動かすことへの意識が非常に高いのだろう。授業を毎週金曜の午前中にすることも定着しており、教科書がなくてもずっと授業は行われてきた。しかし、図工や音楽の授

にすることを目指している。着任すると、図工の授業そのものがなかった。そこで授業として取り扱うことにした。日本では考えられないが図工、音楽、体育の教科書は存在しない。その



小学校の授業で図工を教える
筆者（奥左端）

た。それでも子どもたちに図工の機会を与えようと現地にある少ない材料で手だてを講じた。子どもは幼少期から図工の経験がないため、手先が不器用で筆圧も弱い。実線を安定して描くことも難しい。手先に關しては正方形に切った紙を「折り紙」と

本来なら幼児期に遊びの中から知識を得て、概念を学び、自己表現につなげていくのが理想だ。小学校の限られた時間の中ではあるが、少しでも概念を学び、自己表現ができるよう、多様な教材に触れる機会を設けていきたい。

業は違う。教員も授業の経験がないので教える内容をイメージできない。さらに子どもたちが青ボールペンとノートしか持っておらず、授業内容の幅を広げにくい面もあった。それでも子どもたちに図工の機会を与えようと現地にある少ない材料で手だてを講じた。子どもは幼少期から図工の経験がないため、手先が不器用で筆圧も弱い。実線を安定して描くことも難しい。手先に關しては正方形に切った紙を「折り紙」として使い、さまざまな折り方を教えた。すると回数を重ねることにきれいに折れるようになり、不器用さも解消していった。

また線にはさまざまな種類があることを教え、まねをして描く経験を積み重ねた。いろいろな線を自由に組み合わせることで完成した絵などの作品は教室内の壁に掲示した。お互いに作品を見て刺激を受け、褒め合う時間にもなっている。